

会 議 録

会議の名称	第9回三田市協働のまちづくり推進委員会
開催の日時	令和7年11月19日（水）18時00分～19時20分
開催の場所	三田市役所本庁舎3階302A会議室
出席した委員の氏名	清水委員長、大東委員、益田委員、岡田委員、松田委員
欠席した委員の氏名	澤田副委員長、藤本委員
出席した庶務職員の職及び氏名	横溝市民生活部長、小野地域づくり推進課長、 榎井地域づくり推進課副課長、足立地域づくり推進課職員
その他出席者	なし
傍聴者の人数	0人
議題	1 協働のまちづくり基本指針の改定について (1) 審議日程について (2) 三田市協働のまちづくり基本指針（改定案）について (3) 意見交換 2 その他
会議の概要	三田市協働のまちづくり基本指針（改定案）について、事務局から説明、意見交換を行った。
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	次第 ・資料1 審議日程について(案) ・資料2 三田市協働のまちづくり基本指針（改定案）について 委員名簿 配席表

1 開会

<事務局の司会により開会>

2 協議・報告事項について

<事務局より会議の成立を確認>

3 諮問にかかる議事

委員長により進行。

(1) 審議日程について

委員： 了。

(2) 三田市協働のまちづくり基本指針（改定案）について

事務局： 三田市協働のまちづくり基本指針（改定案）について説明。【資料2】

委員： P1の目次で「Ⅲ 協働・共創に基づく地域住民自治の実現」の「3 多様な担い手の参加を促す」のページ数に誤りがある。

事務局： 修正する。

委員： P22「3 多様な担い手の参加を促す」の「年齢・性別などに関わらず」の部分で、修正前は「性別・年代・国籍や障害の有無などに関わらず」としていたが、修正後は「年齢・性別などに関わらず」となっている。外国籍の方や障害のある方の地域活動への参加は重要な課題であり、その部分を記載しないのは後退しているように感じる。外国籍の方や障害のある方の地域活動への参加については、これからのまちづくりに非常に大切な部分になってくると思う。そのため「年齢・性別など」と括らない方がよいと思う。

委員長： 前回の指摘事項は「障害」を「障がい」とひらがなで記載するかの指摘だったと思う。「障がいや国籍」の記載を削除するという議論はなかったが、いかがか。

事務局： 前回の指摘事項とは異なるが、そもそも地域活動において、国籍や障害の有無を区別すること自体が人権の問題があるのではないかと考えた。また、次の段落で年齢や性別については課題意識として記載しているため、代表例として記載を残した。

委員： 防災の場合は外国にルーツがある方を「どう救うか」ではなく、その方たちが「どのように自治会に関わっているか」が重要であり、障害のある方についても同様である。性別が記載されていて、「国籍や障害の有無」が記載されていない方が問題だと思う。

事務局： 「外国籍の方や障害のある方も地域住民である」という想いがあり、事務局で議論した。次ページに女性や若い人の地域活動への積極的な参加に関する記載が続いていたため、一括してこの記載にした。課題意識として記載する方がよければ、記載する。

委員： 性別を記載するのであれば、外国にルーツがある方や障害のある方も今後地域活動に入っていくということを記載した方がよいと思う。

事務局： その通りだと思う。性別を記載するのであれば、「外国にルーツがある方や障害のある方も含めて」と記載するべきだと思う。

- 委員： 災害があった際に、外国にルーツがある方や障害のある方とどのように共に活動していくかが大きな課題だと思う。そのため、この部分はきっちりと記載していただきたい。
- 委員： 前は「障害」をひらがなで記載するかという議論だった。前回の記載のままが良いと思う。
- 委員長： 委員の想いとしては「国籍や障害の有無などに関わらず」と記載してほしいということだったが、どうか。また前は記載を「障がい」としてはという議論があったが、公的な書類等は漢字を使用することもあり、元の形に戻すということではいかか。
- 事務局： メッセージ性を持たせて記載する。また近年は「外国籍」と言わず、「外国にルーツがある方」と表現することも多くなっているため、その辺りもあわせて記載する。
- 委員： 「性別・年代・国籍や障害の有無などに関わらず」と記載する場合は本文（3段落目以降）をもう少し触った方がよいと思う。本文には外国籍の方や障害のある方のことについて記載されていないが、問題はないか。
- 委員長： 「外国にルーツがある方」「障害のある方」と記載すると結局「すべての人」に包含される気もする。「特に」という部分で「女性」と「学生」が記載されているのは、女性や学生の人材を活かしきれていないなど、今までの問題意識からだと思う。この部分は「性別・年代・国籍や障害の有無などに関わらず」の記載に戻す。その後に「多様な人々」と記載があり、そこに収束される表現になると思う。その次の段落で「特に」とあるが、前段落で「性別に関わらず」と記載しているため、「特に」という記載は不要だと思う。
- 委員： 改めて確認すると、P23に「多様な属性」という記載があるため、本文については外国籍の方や障害のある方について記載しなくてもよいと思った。
- 委員長： 今の議論を踏まえ、P22「3 多様な担い手の参加を促す」の「年齢・性別などに関わらず」の部分は修正いただきたい。
- 事務局： 修正させていただく。
どのように表現するかで記載することは難しいかもしれないが、外国にルーツのある方や障害をお持ちの方は、以前であれば「支えられる側」という認識があったが、委員の意見も受け、「支えられる側」ではなく「支える側」として地域活動に関わっていくのだと理解させていただいた。
- 委員： P4「(3) 協働・共創で期待される効果」「① 市民活動団体等にとっての効果」の●に違和感がある。可能であれば修正いただきたい。
図のタイトルに関して、P3 図1「協働・共創」、P7 図2「協働・共創」となっている。P7 図2「協働・共創の領域」としてはどうか。
P8、P9の表の形態の部分の○が気になる。
P21「(2) 地域の安全・安心な暮らしの確保～防災・防犯～」①「防災マップの作成」とした方がよいと思う。
P18「⑤ 学生や学生サークル等との連携」の「素敵」は話し言葉だと思う。
- 委員： P18「⑤ 学生や学生サークル等との連携」の部分で関西学院大学の書き方に違和感がある。もう少しシンプルに記載してもよい。

- 委員長： P3 図1について「協働・共創の概念」、図2「協働共創の範囲」もしくは「領域」としてはどうか。
- P4の●は違和感があるため修正を検討していただきたい。
- P8の○も「・」でよいと思う。表の中の「・」は不要。複数記載する場合は「・」があってもよいが、1つしかないため不要だと思う。
- P18「⑤ 学生や学生サークル等との連携」で「関西を代表する高等研究機関」は不要。「学生個人の活動もとても素敵なことですが」の部分は「学生個人の活動のみならず」としてはどうか。
- P21「(2) 地域の安全・安心な暮らしの確保～防災・防犯～」の①のタイトルに「作成」の文言を記載すると「作る」と言葉が重複する。「住民目線での防災マップの作成」としてはどうか。
- 事務局： P18の記載については修正する。P21については本文に「地域住民での防災マップの作成」を記載するか、「住民目線での地域防災マップの作成」とするか、いずれかの形で修正する。
- 委員長： P17「(3) 市民活動団体（テーマ型団体）等」「① 担い手の維持・確保」の2段落目で「場合の」を「場合に」に修正願う。
- P23「①中間支援組織」の3段落目「市内には」を「市内では」としてはどうか。
- 事務局： 修正する。
- 本日欠席している委員から事前に指摘事項があったため、説明させていただく。
- P8の表の「・」は不要。
- P23「(1) 地域特性を踏まえた中間支援」「① 中間支援組織」で「中間支援組織とは」の説明があり、ページ下部の脚注と重複するため削除してはどうか。
- その他体裁を整える等の指摘があった。
- 委員長： その通り修正願う。
- 協働・共創の概念は理解できるが、どのように行動したらよいかわからないという時にこの指針が参考になればよいと思う。市民の方にも伝わるとよいと思う。
- 委員： 修正点はこれ以上ない。
- 委員長： 今後の加筆修正については、委員長、副委員長で確認させていただくが、問題ないか。
- 委員： 了
- 事務局： 了
- 委員長： 改定案が確定され次第、事務局から各委員へ送付させていただく。
- 全体を通してお気づきの点あるか。感想など。
- 委員： 知識がないまま参加したが、三田市で協働事業提案制度など様々な事業や活動をしていることを知らなかった。三田市民として非常に勉強になった。以前三田市で別の委員もしたが、その後三田市の情報を積極的に確認するようになった。まちづくり協働センターで掲示されている新聞記事なども大変参考になり、今後三田市に関心を持ち続けたいと改めて感じた。
- 委員： 一番の成果はヒアリングに行けたこと。自分の住んでいる地区を何とか変えたいと思っていたが、説得材料がなかった。そのような状況の中、他の地区にヒアリングに行き、他の地域のことを知ることで「このようなやり方もあるのか」と

勉強になり、すごく良い経験になった。

三田市協働のまちづくり推進委員会でない他の会でも担い手の問題や参加支援型とテーマ型の問題を抱えており、学校でもPTAも同様でどの観点においても抱えている問題は同じだと感じた。

委員： いかに関心を持っていただき、様々な方に知っていただきたい。担い手不足や高齢化など全国どこでも抱えている課題は同じだと思う。ただそれに対して「どうしたら解決できるか」という答えは見つかっていない。まちづくり協議会を設立したら地域の課題が解決されるわけではなく、課題はなかなか深いということを確認した。だからこそ、より一層「何ができるか」を考え続けなければならない。また危機感を煽るのがよいのかは悩ましい部分ではあるが、市民の方が我が事として切実に感じ取っていただければよいのではなかとも思う。各地域のヒアリング結果をまとめた資料は大変よかったと思う。各地域の先進的な取り組みの事例集のようなものは冊子に掲載するか、HPに掲載するかしていただきたい。「まちづくり協議会」と呼び方は一緒でも各地域での活動は様々であり、それが上手く発展しそうな可能性も感じた。すごく参考になった。市民へも何らかの形で共有できるようにしていただきたいと思う。

委員長： この指針に関心を持っていただき、様々な方に知っていただきたい。担い手不足や高齢化など全国どこでも抱えている課題は同じだと思う。ただそれに対して「どうしたら解決できるか」という答えは見つかっていない。まちづくり協議会を設立したら地域の課題が解決されるわけではなく、課題はなかなか深いということを確認した。だからこそ、より一層「何ができるか」を考え続けなければならない。また危機感を煽るのがよいのかは悩ましい部分ではあるが、市民の方が我が事として切実に感じ取っていただければよいのではなかとも思う。各地域のヒアリング結果をまとめた資料は大変よかったと思う。各地域の先進的な取り組みの事例集のようなものは冊子に掲載するか、HPに掲載するかしていただきたい。「まちづくり協議会」と呼び方は一緒でも各地域での活動は様々であり、それが上手く発展しそうな可能性も感じた。すごく参考になった。市民へも何らかの形で共有できるようにしていただきたいと思う。

協働に関しては、足りない部分もあるが、色々勉強させていただき、色々なことが確認できたと思う。